

各地区で伝統芸能を披露

北秋田市内では、お盆の行事として各地域に伝わる伝統芸能が披露され、先祖の霊を慰めるとともに地域住民や帰省客を楽しませました。また、合川地区や阿仁地区では恒例のイベントが開催され、訪れた多くの来場者が行く夏の夜を楽しみました。一部写真で紹介します。

市内

市内で最も広く伝えられている芸能が獅子踊り、駒踊り、奴踊りで由来はほぼ共通しており、佐竹侯が常陸の国から秋田に国替えされたときに、家臣が君主を慰めるために考案された道中芸がルーツといわれています。

それぞれの会場では、地域住民や帰省客らが、艶やかな奴や威勢のよい駒踊りなどが行われるたびに大きな拍手を送り、勇壮な踊りを力メラに納めるなど、故郷のゆく夏を楽しみました。

国

の重要無形民俗文化財に指定されている郷土芸能「根子番楽」が8月14日、旧根子小学校の体育館で公開され、地域住民や帰省客ら約200人の観衆が古来の神楽や能楽に起源を持つとも言われ、歴史的・芸術的に価値の高い伝統の郷土芸能を観賞しました。



国指定重要無形民俗文化財「根子番楽」公開



阿仁前田獅子踊保存会による獅子踊り



米内沢共勇会による駒踊り



阿仁荒瀬獅子踊保存会による荒瀬獅子踊り



坊沢獅子踊保存会による獅子踊り



ふるさとまつり会場で合川太鼓保存会による太鼓演奏



今泉駒踊り郷土芸能保存会による駒踊り



合川中男子生徒が点火に協力



川面に影を映しながら流れる阿仁の灯籠し

合川地区では8月14日、「第40回合川まと火、第31回合川ふるさとまつり」が合川橋付近と健康広場を会場に開催され、地域住民や帰省客らが「まと火」と「通り踊り」などでゆく夏の夜を楽しみました。「まと火」は、春彼岸の中日の伝統行事として、墓地に灯かりをとるとともに、山の尾根づたいや沢づたい、あるいは川原にたいまつを灯し先祖の霊を我が家に迎えてもてなし、供養とともに豊年満作、家内安全を祈ってきたと言われていました。この「まと火」を人々がふるさとに帰省するお盆に阿仁川堤防に延々と灯かりをともし、先祖の供養と郷土愛を培う伝統行事「合川まと火」として行われています。

阿仁地区では8月16日、送り盆行事「第49回阿仁の花火大会と灯籠流し」が阿仁河川公園で開かれ、地域住民や帰省客、家族連れなどが先祖を供養するとともに、山間に響く花火を楽しみました。

灯籠流しは、お盆に帰ってきた死者の魂を現世からふたたびあの世へと送り出すために、死者の魂を乗せた灯籠を流す行事で、花火大会に合わせ阿仁仏教会と灯籠流し奉賛会が中心となって行っています。



間近できらめき山間に響く阿仁の花火大会



「合川ふるさとまつり」で婦人会や合川中女子生徒などによる華麗な「通り踊り」



阿仁川堤防を幻想的に灯す合川まと火